



# 地域支援センターしせい



第3号

【平成28年9月6日発行】

## ～平成28年度 相馬養護学校特別支援教育セミナーを終えて～

第1分科会 「明日から実践できる支援のノウハウ  
～具体的な療育の事例を通して～」  
宮城学院女子大学 教育学部教育学科教授 白石 雅一 氏

具体的な療育や支援などについて様々な実践例をもとにご講話をいただきました。私たちが障がいのある子どもたちを支援する中で、Joint Attention：共同注意、共同注視を大切にし、一つの活動を共有して互いに遊んだり、称賛したりすることで深い関係性に結びつけることができることを実践を通じたビデオ等で学ぶことができました。また、それらの信頼関係を基に互いに気持ちをやりとりし、子どもが主体的に取り組むための方向性を学ぶことができたと感じています。

子どもたちはやがて自立をし、社会に巣立ちます。そのために私たちは支援の計画を子どもの態度から正しく立て、段階的、継続的に支援することが大きな使命であると改めて考えることができた講演でした。さらに、子どもの将来を展望し、現在の支援が子どもの新たな興味、関心の幅を広げ、将来における余暇や仕事に生かすことができる支援を目指すことが重要であるとともに、それらに創意工夫をもたせることの大切さを学ぶことができた講演でした。



第2分科会 「不登校児の支援～福祉と教育の連携～」  
じゅにあサポート「かのん」 統括管理責任者 新妻 直恵 氏



昨年発表された文部科学省の「学校基本調査」によると、日本の小・中学校では今、12万人をこえる不登校の児童生徒がいて、困難性をもった子どもが不登校になりやすいということで、不登校の子どもに対してどのような支援の仕方があるか、またその中で福祉と教育がどのように連携していけるのか、「かのん」での活動や不登校・登校しぶりの事例を基にご講演いただきました。まず、不登校・登校しぶりの子どもを作らないために支援者として欠かせないこと、子どもの発達への気づき、ソーシャルスキルトレーニングの大切さを学ぶことができました。また不登校・登校しぶりの事例を通して、対応の仕方、子どもへのかかわり方などを知り、不登校対応策として、早期の気づき早期の対応の大切さや原因の検討、困難性への理解の大切さなどを教えていただきました。

### 第3分科会 (相馬地方特別支援教育研究会第二次研究協議会)

#### 「合理的配慮に基づいた授業づくり」

「合理的配慮と授業づくり」 福島県養護教育センター 指導主事 江田 貴洋 氏  
「共同研究概要とその実際」 田村郡三春町立三春小学校 教諭 後藤 裕子 氏  
田村郡三春町立三春小学校 教諭 遠藤 淳 氏

江田指導主事からは障害者権利条約や障害者差別解消法、合理的配慮の提供といった近年の特別支援教育に関する動向や合理的配慮の具体例をご講義いただき、後藤先生、遠藤先生からはユニバーサルデザインの考えに基づいた学級・授業づくりが子どもたちのより良い学びや人間関係の向上につながったという三春小学校の実践をご紹介いただきました。

共生社会の形成に向けて、私たちが目の前にいる子どもたちへどんな支援ができるか、それぞれ自分のかかわっている障がい児・者を思い出しながらお話を聞かせていただき、二学期からの授業づくりや支援にさらに意欲が高まったようです。

### 講演会「発達障がいの子どもの特性とその理解

～医療現場での事例や実践を通して～

東京医科大学茨城医療センター 精神科科長 准教授 榎屋 二郎 氏



今年度の講演会は、「福島県特別支援教育振興会相双支部」と共催で行われ、参加者は福祉関係の職員から行政の方、保護者、保育士、小・中学校、高等学校の教員、本校教員を合わせて約120名となり、幅広い分野の方々が榎屋先生の講演に耳を傾けました。

はじめに東日本大震災や福島第一原発事故後における福島県のメンタルヘルスの状況が悪化している現状についての説明がありました。その後、「福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室」の学校支援の活動の現場で見えてきた状況について、発達障がい（自閉症スペクトラム・ADHD）の定義や特性について、適切な支援を受けられず自尊心が低下していくことで起こる二次障害についての話と講演は続いていきました。

昨年度に引き続き、医療の現場で実践されてきたことを聞くことができ、支援の必要な子どもたちを多面的に見る視点や発達障がいのある子どもの予後を知ることで、現在の支援の重要性を強く感じることができました。また、支援者はどのような意識で適切な支援を行う必要があるのか、発達障がいのある子どもたちと日々かわる中で支援者の接し方の一つ一つが大切になってくることなど改めて考え直すよい機会となったと思います。最後に榎屋先生から「福島の子どものために力になりたい。」とおっしゃっていただき、今後とも榎屋先生にはご指導とご支援をいただけたら心強いと感じました。

アンケートでも好評の声が続々寄せられました。アンケートに寄せられた感想をいくつかご紹介します。

「医療関係者から見た発達障がいのある児童生徒の具体的な特性や理解の仕方、問題行動について知ることができ参考になった。」

「子どもの本当の課題を見極めるためのアセスメント、他機関との連携、他の先生との協力などの重要性を感じた。」

「小さい頃からの適切な支援が将来の行動に影響することを知り、将来を見通しての一人一人に丁寧な支援を行うことを考える機会となった。」